

改正運動日本前農地と共同で行ひこり機会を
利用して「労働組合調査」を行つた
即ち十月五日に「労働組合調査」として社会性
有研究の補助を得て、日本前農地聯合と共同
して「組合調査」を行つたが、結果は頗るよく活
人ど合での各級を支配し調査を行つた。調査の結
果は四下社会連済研究所に於て整理中である
「工場と組合」 第八号 参照。

同製作物調査を以て対する本同盟の態度をの如
①調査員 調査員責任 調査方法の民主化
②調査家に労働者の苦痛を有りの事、この救済を
せしめゴマ化との記入を防止③ この救済を
バツロするたぐひに研究會演説會を利用し④救
済の労働者教育のために政治的に闘争する
こと

「教育出版部報告」

①出版部報告
「機関誌」工場と鉱山」の発行
昭和二年五月四日発行
昭和二年五月廿六日中央銀行労働會 七月廿四
中央労働會の決定案に待て二月廿六日一六
頁に統一の事十一号より二の頁を失した
「工場と組合」の発行
し、その結果はより厚くす昭和二年十一
月全訂改訂版により「正義の光」を同盟
本部にて出版したが会計調査復旧により
日本紡織にもいす

②同盟時議の発行
③組合同盟運動方針書完了

(一) 教育事務報告

同盟本部の教育活動は主として各加盟組
合の教育運動の統一にあり、中央労働学校
の設立により、特殊の運動を続け来つた。

一 加盟組合教育統一に就いて

- ◇ 関東合同「メー」研究会(四月下旬)
- ◇ 日本紡織巡回講座(五月廿九日、六月下旬)
- 科目：社会思想、労働組合論、経済学
- ◇ 中大労働学校(昭和二年一月設立)
- ◇ 特選「一」週内外の短講義(一)地域の
必要に於て分校を開く等
- ◇ 昭和二年一月に分校第一期、大分分校第一期

「争議部報告」

昭和二年度争議の傾向は、①独自の大資本の

批駁的攻勢と、④没落しゆく小資本の絶望的攻
勢の深刻化となつてあらはれてゐる。尤も組合
同盟昨年度争議總件数五〇件に及ぶは、

組合正色「四件、不當解雇」二件、臨時休業、
工場閉鎖、賃金減額「一八件、待遇改善」二件
を以てゐるが、正色は大資本の批駁的攻勢に
相當し、尾去澤、鏡山その他に於ける如く全敗が
大部分を占めてゐる。解雇は④回、偏向の混合
である。臨時休業その他一八件は我々の奮下反對運
動を以て得心と全勝を齎してゐる。

争議部報告は三十日以上のもの一四件を採りて
なるが、此は明かに資本攻撃期に於ける労働者
議の苦闘を物語るものである。然し、組合同盟
の勇敢にして適確なる方針によりたの如き好成
績を挙げてゐる。

「争議部報告」
昭和二年五月四日発行
昭和二年五月廿六日中央銀行労働會
七月廿四日中央労働會の決定案に待て二月廿六日一六
頁に統一の事十一号より二の頁を失した